

金融

軍票上海高ニ追隨上昇地方ヨリ軍票流入モナク強氣週中最高一四四弗三〇ニ達ス週末一四二弗八〇ナリ

市況

桐油相場「ノミナル」擔二百元商ナシ

豆油擔四三圓保合

胡麻作柄良好出廻多ク相場擔二一圓（三圓安）

小麥買付協定値擔一一弗二〇仙ニテハ殆ト出廻ラヌ各商社ハ奥地ニ

入り込ミ買付中ナルモ集荷多カラヌ

綿糸布奥地搬出嚴重ニナリタルト法幣暴落ニ支那人ノ購買力減退シ

一服ノ状態ナリ相場保合綿糸藍鳳二〇手一、〇三〇圓（二〇圓安）

綿布前週ト變ラス以上。



閱

宣務

十月廿四日

中村 號

第一六一六號

米二普通合第四五八九號

昭和十五年十月十二日

拾年侍

第九九

15.10.13

松山

別紙添附

外務次官心得 大橋 忠

陸軍次官 阿南 惟幾 殿

外務次官心得

陸軍省 15.10.14 1358 宣務課

伯亞通商協定竝ニ米國ノ汎米積極工作ニ關スル件

今般在米堀内大使及在伯工藤代理大使ヨリ別添寫ノ通り電報有之  
タルニ付右御参考迄茲ニ送付ス

本信送付先 陸軍省、海軍省、企畫院



寫

十月十日着松岡外務大臣宛在米堀内大使來電  
最近ノ新聞報ハ

陸軍省  
5.1014  
軍務課

(一)米ハ西半球防衛強化ノ爲米ノ財的援助ノ下ニ米洲諸國ノ共同使  
用ニ供セラルヘキ軍事基地建設方ニ關シ伯刺西爾、亞爾然丁、  
祕露、「ウルグアイ」、「エクワドル」、「ボリビア」、「パ  
ラグアイ」、哥倫比亞及「ヴェネズエラ」ト交渉中ナルカ獨リ  
亞ハ右交渉ニ氣乗り薄ヲ示シ居リ

(二)米ヨリ「マルチニツク」所在飛行機ノ返還方交渉ヲ受ケタル佛  
大使ハ獨佛休戰條約ニ依リ武器ノ移動ヲ禁セラレ居ル爲返還至  
難ナルヘキ旨又同地ノ防備擴張ハ開戰前ヨリ計畫セラレタルモ  
ノナルモ右ハ實行セサル旨ヲ答ヘ

(三)玖馬經濟使節來米セルカ右ハ五千萬弗ノ對玖借款交渉ノ爲ト傳  
ヘラレ

(四)亞伯通商取極ハ六日調印セラレタルカ右ハ兩國新加工業獎勵及

外務省



保護關稅ノ改正五千「ペソ」ノ相互「クレヂット」設定ヲ含ミ  
居ル趣ヲ報シ居レリ

外  
務  
省

(日本標準規格B5)



寫

松岡外務大臣宛「リオ、デ、ジャネイロ」十月五日發  
工藤代理大使來電寫

二日亞國大藏大臣ヲ首班トスル經濟使節ハ當地着以來伯國側ト折衝ヲ開始シ爲替、農產物、工業品及原料品竝ニ雜問題ニ關シ小委員會ヲ設ケ關係事項審議中ノ處四日ノ工業品小委員會ニ於テハ交渉方針トシテ

(一)伯亞兩國將來ノ生產品ニ對シ一切ノ制限ヲ排除スヘク協定スルコト

(二)競争品ニ非ル過剩物產ノ即時買付ニ付相互ニ「クレヂット」ヲ與フルコト

(三)兩國貿易増進ノ爲相互ニ經濟的調和ヲ計ルコトニ付檢討ヲ加フルコトヲ申合セタル趣ナルカ亞カ小麥其ノ他過剩生產品賣却ノ代償トシテ綿布ノ買付量ヲ増加スルヤ否ヤ注意ヲ要ス



寫

松岡外務大臣宛「リオデジャネイロ」十月七日  
後發工藤代理大使來電寫

十月五日附往電ニ關シ

會談ハ極メテ圓滑ニ進捗シ六日兩國代表ハ通商關係調整ニ關スル  
勸告ニ調印シ本國政府ノ承認ヲ求ムルコトトセリ其ノ要領ハ

一 兩國ノ現ニ生産シ居ラサル物産ニ關シテハ十年間保護關稅其ノ  
他輸入制限措置ヲ採ラス

二 貿易勘定記錄方法ヲ統一シ定期ニ「バランス」ノ調整ヲ行ヒ

三 相手國ヨリ輸入セル小麥其ノ他ノ食料ノ代用品ヲ三年以内ニ撤  
廢シ亞ハ伯ノ織物其ノ他工業品ニ一年最低三千萬「ベソ」ノ割  
當ヲ供與シ

四 競爭品ナラサル過剩生産品ノ買付ニ相互ニ五千萬「ベソ」迄ノ  
「クレヂット」ヲ與フルコトトセリ

昨年度統計ニ依レハ伯ノ對亞貿易ハ輸入四一九、六〇九「コント」



輸出三一〇、一〇三「コント」ニテ本件勸告實施ノ上ハ伯ノ對亞  
輸出増加シ綿布ノ如キモ著シク進出スルモノト認メラル因ニ伯ノ  
昨年度綿布輸出總額二九、三八七「コント」中亞向二三、一三九  
ナリ



第六二號

二月廿四日

拾年例

第五二二二

官房第五四〇四號ノ四

昭和十五年十月十五日

15.10.19  
官房

海軍省副官 一宮 義之

陸軍省副官 川原直一殿

之

陸軍省  
15.10.19  
379  
軍務課

滿洲國人見學ノ件通知

本件左記ニ依リ許可セラレタルニ付御了知相成度

記

一見學者

滿洲國牡丹江教育會訪日教育視察團一行二十六名

引率者 團長 同會常務幹事 服部淳二

二見學期日及個所

十月二十五日 株式會社島津製作所

(終)

海軍

最



第 三 六 號

官房第五四六四號ノ四

昭和十五年十月十九日

海軍省副官 一宮 義之

陸軍省副官 川原直 一殿

滿洲國人見學ノ件通知

本件左記ニ依リ許可セラレタルニ付御了知相成度

記

一見 學 者

滿洲國海城師道學校日本修學旅行團一行一一五名

引率者 同校教諭 柴田 三次郎

二見學期日及個所

十月二十六日 株式會社島津製作所

十月廿四日

密

海 軍 (終)

檢印保

五二二

15.10.22 海軍省副官

15.10.22 陸軍省 學務課

加藤 佐



第 四 六 號

(裁決) 行決 覽 回 後		帶 運		決行指定		決裁指定		保存期限	
長(部)局		長(部)局		局長委任		十年		受領番號	
				大臣		件名		壹號	
				政務次官		農林省官吏要員トシテ滿洲國現職官吏割		愛方ニ關スル件	
長 課		長 課		高級副官		參與官		起元廳(課名)	
				局長		書記官		農 林 省	
				主務官		書記官		陸 軍	
				副官		書記官		審案	
				主務員		書記官		筆記者	
				大臣官房		主務局長		陸 軍	
				了結		昭 和 年 月 日		昭 和 年 月 日	
				昭 和 年 月 日		昭 和 年 月 日		昭 和 年 月 日	
				昭 和 年 月 日		昭 和 年 月 日		昭 和 年 月 日	

政務官 回付(決行)

十年

(決行後)

審案

陸

軍

壹號第四四三二號

農 林 省

農林省官吏要員トシテ滿洲國現職官吏割  
愛方ニ關スル件

局長 原

主務官 原

副官 原

主務員 原

昭 和 年 月 日

昭 和 年 月 日

昭 和 年 月 日

軍務課第一〇〇七號



次官ヨリ農林次官宛回答 (陸滿密)

九月十二日附秘書第二〇七號ヲ以テ左記ノ者ヲ農林  
屬要員トシテ割愛方ノ件右ノ滿洲國側ニ於テ  
異存無之候ニ付御承知相成度

進テ退官發令ハ事務ノ都合上十一月一日附ト致  
度旨申出有之候ニ付申添候

左記 陸滿密第九四七號

昭和十一年十月廿二日

滿洲國興農部屬官馬場 章



滿秘人

見  
田村

關參滿發第三九八九號

農林省官吏要員トシテ滿洲國現職官吏  
割愛方ニ關スル件回答

昭和十五年十月十五日

關東軍參謀長 飯村

陸軍次官 阿南 惟茂 殿

九月二十日附陸滿密第八五三號ヲ以テ照會アリタル左記ノ者ヲ農林  
屬要員トシテ割愛方ノ件關係方面ニ於テ異存無之ニ付承知相成度  
追テ本人ハ當方事務ノ都合上退官發令ハ十一月一日附ト致度旨滿  
洲國側ヨリ申出アリタルニ付申添フ

左記

農林部屬官

馬場

章

昭和十五年十月十五日  
陸軍省  
前午  
參謀官

15.10.19  
1231  
軍務課

陸軍



志 4432

(大連高木納)



政務官 書記官 回付(決行前)

(決行後)

審案 筆記者

陸

軍

(裁決) 行決 覽 回 後	帶 連		決行指定	決裁指定	保存期限 十年
	長(部)局	長(部)局			
			大臣	件名	受領番號
			香	農林省官吏要員トシテ滿洲國現職官吏	壹分第四四三二號
			官次	政務次官	起元應(課名)
			香		農林省
長 課	長 課		局長務主	官副級高	官與參
			香		
			長課務主	副官	主務
			香		書記官
			員課務主		
			房官臣大	課局務主	主務
			了結領受	出提領受	號番
			昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	陸軍省 第六三三號
			昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	

農林省官吏要員トシテ滿洲國現職官吏

壹分第四四三二號

起元應(課名)

農林省

陸軍



次官より關東軍參謀長宛照會 (陸滿密)

首題ノ件ニ關シ農林省より現滿洲國興農部  
屬官馬場章ヲ割愛相受テ農林屬ニ任用  
致度旨申出有之タル處貴方支障ノ有無  
承知致度

陸滿密第八五三號 昭和五年九月廿七日



陸軍省  
第四三三號

秘畜第二〇七號

昭和十五年九月十二日

農林次官 井野 碩 哉

陸軍次官 阿南 惟 幾 殿

滿洲國興農部屬官 馬 場

也 右ノ者農林屬ニ任用致度候處割愛方可然御取計相煩度此段及照會候









以官より關東軍參謀長宛照會 (陸軍)

首題ノ件ニ關シ司法省ヨリ別紙寫ノ通申越

有之タルニ付可然取討相成度

進シ參列者激進ニ決定ノ上ハ其所屬官氏名

當方ハ通知相煩度申添テ

陸普第七二三四號 昭和五年十月九日



寫

司法省 秘第一八二二號  
刑事局

昭和十五年十月七日

司法次官 三宅 正大郎

陸軍次官 阿南 惟幾 殿

經濟實務家會同開催ニ關スル件

來ル十月二十九、三十ノ兩日間當省ニ於テ經濟係判檢事ヲ召集シ經濟統制法令違反事件ノ處理ニ關シ協議ヲ爲サシムル爲會同開催可相成豫定ニ候處經濟事務ハ滿洲國ト特ニ緊密ナル連絡協調ノ要有之哉ニ思料候ニ就テハ御希望モ有之候ハハ同國司法部關係者二名派遣方

陸軍







陸軍省 陸軍部 陸軍大臣 田中

司法省 刑事局 秘第一八二二號

昭和十五年十月七日

司法次官 三宅 正太郎

陸軍次官 阿南 惟幾 殿

經濟實務家會同開催ニ關スル件

來ル十月二十九、三十ノ兩日間當省ニ於テ經濟係判檢事ヲ召集シ經濟統制法令違反事件ノ處理ニ關シ協議ヲ爲サシムル爲會同開催可相成豫定ニ候處經濟事務ハ滿洲國ト特ニ緊密ナル連絡協調ノ要有之哉ニ思料候ニ就テハ御希望モ有之候ハハ同國司法部關係者二名派遣方可然御取計相成度此段得貴意候  
追而參列者決定ノ上ハ其ノ所屬廳、職名等十月二十日迄ニ當省到



司法省



達ノ見込ヲ以テ御通知相煩度候

司  
注  
省

日本標準規格B型四番







次官より司法次官宛回答 (陸滿密)

十月七日附司法省刑事局秘第一八三號より御照  
會ニ係ル首題會同ニ滿洲國司法部關係者左記  
兩名出席可致ニ付可然御取訂相成度

左記

奉天地方法院次長 審判官 小泉 敏次

奉天地方檢察廳次長 檢察官 村口 康次郎

陸滿密第九四八號

昭和十一年十月廿四日





主任

陸軍省  
電報

第

秋電報

次官宛

發信者

關東軍參謀長

關參滿電第一〇三〇號

〇月 一九日 午前 午後 一九時 三五分 著



翻譯者



62



十月九日附陸普第七二三四號ニ依ル經濟實務家  
會同ニ滿洲國側ヨリ奉天地方法院次長(審  
判官)小島スミツサ「奉天<sup>地方</sup>檢察廳次長(檢察  
官)ムラタキヤスシロウハ兩名ヲ派遣出席セシム  
村口康次郎

(終)

通報先

陸軍

4875

10.11



陸軍省 第三二八號  
拾年保  
3021

昭和十五年十月十五日

貴族院書記官長 瀨古保次

陸軍次官 阿南惟幾 殿

貴族院代表海軍省の陸海軍傷病者其の同國を

拜啓陳者内地陸海軍傷病將兵慰問ノ爲別紙日程ニ從ヒ本院代表議員團（一行氏名別紙ノ通）ヲ派遣致スコトニ相成候ニ付テハ乍御手數關係各病院等へ豫メ通知方可然御取計相願度此段及御依頼候  
追而宿泊旅館、自動車等ノ準備ハ關係各府縣廳ニ依頼致置候間  
御承知被下度爲念申添候

敬具

海軍省に於ては同僚同所ニ迎報協由  
二所出マシテ了トセリレ

勸事課





内地陸海軍傷病將兵慰問團第一班 (東北、北海道)

貴族院議員

子爵

松平

忠壽

同

錦小路

賴孝

同

澤田

牛磨

一部參加

同

佐々木

嘉太郎 (青森縣人、參加)

同

柴田

兵一郎

同行職員

貴族院屬

村松

孝一



内地陸海軍各將兵練習團第二班 (奥羽)

貴族院議員

出淵 勝次

同

橋本 辰二郎

同

賭橋 久太郎

一部参加

子爵

秋元 春朝 (群馬縣ノミ参加)

同

結城 安次

同

澁澤 金蔵 (水戸、高崎ノミ参加)

同行職員 貴族院速記技手

山田 到



内地陸海軍傷病將兵慰問團第三班 (東京附近)

貴族院議員

侯爵

小村

捷治

同

子爵

北小路

三郎

同

男爵

淺田

良逸

一部參加

同

磯野

庸幸

同行職員

貴族院屬

村田

好



内地陸海軍傷病將兵慰問團第四班(長野縣、山梨縣、靜岡縣、愛知縣)

貴族院議員

横山 助成

同

大谷 五平

同

秋田 三一

一部參加

同

小坂 順造

同

磯貝 浩

同行職員

島 正雄



内地陸海軍傷病將兵慰問團第五班 (北陸)

貴族院議員 男爵 坊城 俊賢

同 菅澤 重雄

同 佐藤 助九郎

一部參加

伯爵 溝口 直亮 (新發田ノミ)

同 熊谷 三太郎

同行職員 青木 喬



内地陸海軍傷病將兵慰問團第六班（中部、近畿）

貴族院議員 子爵 植村 家治

同 子爵 池田 政銀

同 男爵 北大路 信明

一部參加

同 多木 久米次郎（白旗養所シテ參加）

下出 民義（名古屋市シテ參加）

同行職員 貴族院技手 澁井 徳之助



内地陸海軍傷病將兵慰問團第七班 (京都、大阪)

貴族院議員

侯爵

久我

通顯

同

子爵

京極

高銳

同

男爵

杉溪

由言

一部

貴族院議長

松平

巖作

(京都、加古川)

同貴族院議員

瀧川

儀作

(姫路、加古川、岩屋ノミ)

同

多木

久米次郎

(姫路、加古川、生分)

同

大澤

德太郎

(京都ノミ)

大阪

同行職員

貴族院屬

吉澤

郁



内地陸海軍傷病將兵慰問團第八班 (中國)

貴族院議員 子爵 富小路 隆直

同 河井 彌八

同 男爵 松平 外與磨

一部參加

同 丸山 鶴吉

同行職員 丸井 正彦



内地陸海軍傷病將兵慰問團第九班 (四國、九州北部)

貴族院議員 子爵 土岐 章

同 男爵 三須 精一

同 赤池 濃

同行職員 西村 五十馬



内地陸海軍傷病將兵慰問團第十班 (九州)

貴族院議員

子爵

仙石

久英

同

男爵

八代

五郎造

同

中村

純九郎

一部參加

同

中野

敏雄

(佐賀、嬉野ノミ參加)

同行職員 貴族院守衛副長

江澤

重孟



内地傷病將兵慰問日程（昭和十五年十月）

第一班 地名 發着時刻 宿泊 慰問病院名 摘要

十日  
五日  
三日

1 上野 午後八、三四  
2 秋田 午前九、一〇  
3 碓ヶ關 午後三、一二  
4 弘前 午後六、〇五  
5 青森 午後二、五八  
6 函館 午後一〇、三〇  
7 旭川 午後一、二五  
8 上川 午後一、〇〇  
9 層雲峽往復（バス）

秋田陸軍病院  
碓ヶ關分院

弘前陸軍病院、堀越分院  
青森陸軍病院

函館陸軍病院

旭川陸軍病院、旭川赤十字病院

層雲峽分院

上川 午後四、五〇



三六

6

旭川 午後六、二六

札幌 午後七、〇〇

札幌 午後一〇、四八

定山溪往復(定山溪鐵道)

午後四、五五

函館 午後一、四五

青森 午前〇、三〇

野邊地 午前六、一〇

野邊地 午前六、五七

大湊 午前九、四八

野邊地 午後一、五五

盛岡 午後八、二四

上野 午後七、五〇

午前二〇、二二

午前一〇、二二

三九

8

札幌

定山溪分院

札幌陸軍病院

船中

大湊要港部病院

盛岡陸軍病院



内地傷病將兵慰問日程（昭和十五年十月）

第二表

日天地名

發着時刻

宿泊

慰問病院名

備註

十月  
二十三日

上野 午前六、一五  
水戸 午前八、五四  
午後二、四〇

水戸陸軍病院、水戸赤十字病院、  
水戸市立第一、第二、第三、第四、第五、第六、第七、第八、第九、第十、第十一、第十二、第十三、第十四、第十五、第十六、第十七、第十八、第十九、第二十、第二十一、第二十二、第二十三、第二十四、第二十五、第二十六、第二十七、第二十八、第二十九、第三十、第三十一、第三十二、第三十三、第三十四、第三十五、第三十六、第三十七、第三十八、第三十九、第四十、第四十一、第四十二、第四十三、第四十四、第四十五、第四十六、第四十七、第四十八、第四十九、第五十、第五十一、第五十二、第五十三、第五十四、第五十五、第五十六、第五十七、第五十八、第五十九、第六十、第六十一、第六十二、第六十三、第六十四、第六十五、第六十六、第六十七、第六十八、第六十九、第七十、第七十一、第七十二、第七十三、第七十四、第七十五、第七十六、第七十七、第七十八、第七十九、第八十、第八十一、第八十二、第八十三、第八十四、第八十五、第八十六、第八十七、第八十八、第八十九、第九十、第九十一、第九十二、第九十三、第九十四、第九十五、第九十六、第九十七、第九十八、第九十九、第一百

仙臺 午後八、四四  
午後一、〇〇

仙臺陸軍病院、宮城野原分院

二十三日

小牛田 午後二、一〇  
午後二、四〇

鳴子分院

鳴子 午後四、〇八

午後六、二二

新庄 午後七、五六

午後八、〇八

山形 午後九、四二  
山形

午前一〇、〇六

山形陸軍病院

二十四日



東根 午前10、三九 東根分院

午後11、一三

福島 午後6、三〇 福島

飯坂温泉往復(福島電氣鐵道線) 飯坂分院

二十五日

午後0、〇六

郡山 午後1、〇〇

午後2、一二

會津若松 午後3、五五 會津若松 若松陸軍病院

5

二十六日

郡山 午前1、二〇

午後0、一二

宇都宮 午後3、〇八 宇都宮

6

二十七日

小山 午前1、二〇

午後0、一〇

高崎 午後2、三四 高崎

7

二十八日

上野 午後0、二〇

高崎陸軍病院、高崎赤十字病院

宇都宮陸軍病院、戸祭分院、新川分院



第三班

内地傷病將兵慰問日程（昭和十五年十月）

月日 日次地名 發着時刻 宿泊 慰問病院名 摘要

一〇、一二 1 東京

一二三 2 東京

一四 3 東京

二五 4 高田馬場驛ヨリ西武電車ニ

テ所澤、所澤ヨリ自動車ニ

テ立川、省線立川驛ヨリ歸

京

臨時東京第一病院、陸軍軍醫學校  
月島分院

東京第二陸軍病院、大藏分院、東  
京赤十字病院

東京第三陸軍病院、相模原陸軍病  
院

所澤陸軍病院、立川陸軍病院

二六 5 東京 午前 八、〇七

横須賀 午前 九、一五

東京 午後 四、〇九

二七 6 兩國 午前 七、四〇頃

横須賀陸軍病院  
横須賀海軍病院



二八  
7

市川	津田沼	兩國	上野	柏	成田	佐倉	千葉	兩國
午前八、〇〇頃	午前一一、三〇頃	午後四、三〇頃	午前六、四五	午前七、二五	午前一一、二四	午前一一、四五	午後二、三六	午後五、二二

國府台陸軍病院

下志津陸軍病院、習志野陸軍病院

柏陸軍病院

佐倉陸軍病院

千葉陸軍病院、友昇分病室



内地傷病將兵慰問日程（昭和十五年十月）

第四班

十月二十六日

日次 地名 發着時刻 宿泊 慰問病院名 摘要

1 上野 午前八、三〇

上山田分院

小山新湯行

戸倉 午後一、一三

篠ノ井 午後五、〇〇

松本 午後五、二〇

鹽尻 午前二〇、一九

甲府 午後二、〇三

松本陸軍病院

一行五分

下部 午後六、〇四

富士 午前一〇、〇八

甲府陸軍病院

二十四日 3

富士 午前一一、四五

下部分院

午後〇、四四

甲府陸軍病院、東三馬子院、甲府



二十五日 4

静岡 岡 午後一、三一

赤十字病院

赤十字病院

濱松 午前一〇、一二

濱松陸軍病院

豊橋 午後〇、五五

高師原分院

三島 午後二、五〇

豊橋陸軍病院  
三島陸軍病院

熱海 午後五、〇七

熱海

熱海分院

伊東 午前一一、二一

伊東分院

下田 午後四、四五

下田 湊海軍病院

吉奈口 午前九、四五

吉奈口 吉奈分院

伊東 午後八、二五

熱海 午後八、五八

東京 午後一〇、五五

東京

東京

二十七日 6

東海自動車

東海自動車

二十八日 7



内地傷病將兵慰問日程（昭和十五年十月）

第五班

月 日 日次 地名 發着時刻 宿泊 慰問病院名 摘要

一〇、二二 上野 午後 九、三〇

三三 2 新發田 午前 九、三〇

新津 午後 〇、五〇

五泉 午後 一、〇五

村松 午後 二、一八

加茂 午後 二、三〇

直江津 午後 五、一三

直江津 午後 五、五八

直江津 午後 六、五七

高田 午後 九、五〇

高田 午後 一〇、〇二

高田 午後 一〇、一四

高田 午前 一〇、三五

三三 3

直江津 午前 一〇、四四

新發田陸軍病院

村松分院

高田陸軍病院

秋田行

一行







内地傷病將兵慰問日程（昭和十五年十月）

第六班

日次 地名 發着時刻 宿泊 慰問病院名 特急燕

昭和十五年拾月廿貳日 東京 午前九、〇〇

名古屋 午後二、一七 名古屋

名古屋陸軍病院、臨時第二病院、東練兵場分院、佐島分院、伏見分院、赤十字病院

拾月廿參日 2

岐阜 午後五、四〇 岐阜 岐阜

岐阜陸軍病院

拾月廿四日 3

下呂 午後二、〇七

下呂分院

午後五、二〇

岐阜 午後七、五七

午後八、二一

名古屋 午後九、〇七 名古屋

拾月廿五日 4

午前六、三六

津 午前八、三五

津陸軍病院

特急燕



久井往復(中勢鐵道線)

榑原分院

津 午後 一、二一

龜山 午後 一、四三

奈良 午後 二、〇一

奈良 午後 三、二四

奈良陸軍病院、

拾月廿六日 5

王寺 午前 九、〇〇

和歌山 午前 九、五八

和歌山 午後 〇、三四

和歌山陸軍病院、赤十字病院

白濱口 午後 五、〇一

白濱 午後 八、三〇

白濱療養所

拾月廿七日 6

和歌山 午後 〇、〇五

和歌山 午後 二、三八

難波 午後 三、〇五

大阪 午後 四、一〇

東京 午後 八、〇一

拾月廿八日 7

東京 午後 七、三〇



内地傷病將兵慰問日程（昭和十五年十月）

第七班

月	日	日次	地名	發着時刻	宿泊	慰問病院名
一〇	二二	1	東京	午後九、二五	車中	
二三	2	2	大津	午前七、五三	臨時大津陸軍病院、赤十字病院	
			京都	午後〇、一三		
			京都	午後〇、二八	京都陸軍病院、赤十字病院、高野川分院	
二四	3		綾部	午前八、一〇		
			舞鶴	午前〇、二四		舞鶴海軍病院
			綾部	午後一、一八		
			福知山	午後一、〇〇		福知山陸軍病院
			福知山	午後二、〇〇		
			福知山	午後五、四六		
			福知山	午後七、一二		
二五	4		大坂	午前〇、三四		福知山陸軍病院
			大坂	午後〇、一八		
			大坂	午後〇、三一		
			大坂	午後二、三一		
			大坂	午後三、四三		
			近江八幡	午後三、四三		福知山陸軍病院

神戸行

一〇月







第八班

日次地名

發着時刻

宿泊

慰問病院名

摘要

十月三十日  
三十一日

1 東京 午後八、四〇  
2 岡山 午前一〇、五六  
車中

岡山陸軍病院

下關行急行

福山 午後三、一四

福山陸軍病院

廣島 午後八、二八

廣島

廣島陸軍病院、大野分院、基町一分院、基町二分院、三浦分院、江波分院、赤十字病院、吳海軍病院

二十六日

5 下關 午後九、〇五

下關陸軍病院

小郡 午後一、〇二

湯田 午後一、二五

湯田分院

山口 午後三、二九

山口



山口陸軍病院

石見益田

午後六、一五

午後八、四七

午後九、〇八

濱田

午後一〇、一八

濱田

二十七日

6

松江

午後二、三九

米子

午後五、〇〇

鳥取

午後一、二八

二十八日

7

津山

午後三、四〇

姫路

午後六、〇四

東京

午後九、〇八

東京

午後九、二四

東京

午前一〇、〇七

二十九日

8

濱田陸軍病院  
松江陸軍病院

皆生分院  
鳥取陸軍病院

車中



内地傷病將兵慰問日程（昭和十五年十月）

第九班

日次 地名 發着時刻 宿泊 慰問病院名 摘要

十月二十二日 1

東京 午前九、〇〇  
神戶 午後五、三七

船中

特急燕  
土佐商船高知線

二十三日 2

高知 午前八、三〇  
阿波池田 午前一一、三五  
午後二、一九  
午後二、五八

高知陸軍病院

二十四日 3

德島 午後五、〇七  
高松 午後〇、〇〇  
丸龜 午後〇、二二  
午後一、一〇  
午後三、〇八  
午後三、一五  
午後三、二五

德島 德島陸軍病院  
丸龜分院

二十五日 4

多度津 午前六、二八  
善通寺 午前六、一七  
午後三、四一  
午後三、一五  
午後三、二五

善通寺 善通寺陸軍病院、臨時一分院



二十六日 5

松山 午前六、四八  
道後往復(伊豫鐵道電氣線) 松山 午前一一、二一  
道後分院 松山陸軍病院

高濱 午前五、二一  
別府 午前五、四〇  
別府 午前一〇、五〇  
別府陸軍病院、臨時分院、轉地分院、別府海軍病院

大分 午後三、五五  
大分 午後四、一五  
大分陸軍病院

久留米 午後一、〇八  
久留米 午前一一、二六  
久留米陸軍病院  
武藏分隊

土田市 午前一一、二一  
午後一二、三二

福岡陸軍病院

博多 午後三、四七  
博多 午後四、五四  
博多 午後六、三一  
小倉 午後一、四六  
小倉陸軍病院

二十八日 7

門司 午前正  
門司 午後〇、五〇  
門司 午後一〇、〇七  
車中

二十九日 8

東門 午前一〇、〇七

大阪商船別府線



内地傷病將兵慰問日程（昭和十五年十月）

第十班

日次	地名	發着時刻	宿泊	慰問病院名	摘要
二十一日	東京	午後一、三〇	車中		
二十二日	下關	午前八、〇〇			
二十三日	門司	午前八、五〇			
二十四日	熊本	午後〇、四九	熊本	熊本陸軍病院、健軍分院	特急櫻
二十五日	日奈久	午前八、五八		日奈久療養所	
二十六日	出水	午後一、五二			
二十七日	鹿兒島	午後三、〇〇	鹿兒島		
二十八日	鹿兒島	午後五、〇五		鹿兒島陸軍病院	
二十九日	都城	午後二、二九		都城陸軍病院	
三十日	鹿兒島	午後七、一三	車中		
三十一日	鹿兒島	午後一〇、三〇	車中		



三ノチ  
5

鳥 橋  
午前 五、三五  
午前 八、四〇  
午前 九、二二

佐賀陸軍病院

三ノチ  
6

肥前山口  
午後 一、〇二  
午後 一、一九  
午後 一、二八

佐世保 佐世保海軍病院

早 岐  
午前 八、一〇  
午前 八、一八  
午前 九、二二

大村陸軍病院

彼 杵  
正 午 三、六

嬉野海軍病院

自動車

武 雄  
午後 四、一四  
午後 四、三二

肥前山口  
午後 四、三二

門 司  
午後 七、四〇  
午後 一〇、〇〇

下 關  
午後 四、〇〇

三ノチ  
7

特急



第七六第

府政國帝本日大

閱

發文一五六號

昭和十五年九月二十一日

陸軍省 第一五九號

9.22

陸軍省

陸軍省 15.9.24 164 軍事課

本件以現地ノ意見ヲ徴スル  
其ノ上陸軍ノ意見  
ヲ肉示スル

軍務課

次

官

多敷ノ意見ヲ徴スル  
後者ヲ選定スル  
此ノ旨ニ依リテ  
現地ノ意見ヲ  
徴スル  
其ノ上陸軍ノ  
意見ヲ肉示スル  
事

綱ニ關スル件

前九時ヨリ當省第三會議

關係官御派遣被相成度此

追而出席者決定次第官職氏名至急御回報相煩度

吉野 長

陸軍省 第一五九號



第七六第 府政國

福山 閱

發文一五六號

昭和十五年九月二十一日

四三九

15.9.21

陸軍省 15.9.24 164 軍事課

軍務課

次

官

陸軍省 官印

陸軍省 官印

追而出席者決定次第官職氏名至急御回報相煩度

追而出席者決定次第官職氏名至急御回報相煩度

前九時ヨリ當省第三會議  
關係官御派遣被相成度此







閱

發文一五六號

昭和十五年九月二十一日

文部次

陸軍次官殿

陸軍省 15.9.24 164 軍事課

外國及外地派遣教育職員取扱要綱ニ關スル件、

標記ノ件ニ關シ本月二十六日(木曜日)午前九時ヨリ當省第三會議室(四階)ニ於テ協議會開催致度ニ付貴廳關係官御派遣被相成度此段御依頼ニ及フ

追而出席者決定次第官職氏名至急御回報相煩度

九月八日

吉田首相

Handwritten notes in vertical columns at the top of the page.

Handwritten note at the bottom of the page.



第 八 十 八 號

(裁決) 行決 覽 回 後	連 帶		執行指定 副 長 任 委	決裁指定 十年	保存期限
	長(部)局	長(部)局			
			大 臣	件 名	番 號
			委	鐵道局副參事原職復歸二處五件	
			政 務 次 官		壹 第 四 七 〇 七 號
			委		起元應(課名)
			參 與 官		鐵 道 省
			高 級 副 官		審 案
			主 務 官		筆 記 者
			主 務 副 官		陸 軍
			主 務 員		
			大 臣 官 房		
			受 領 出 提		
			昭 和 年 十 月 三 日		
			昭 和 年 十 月 六 日		

政務官 同付(執行前)

陸軍省

(執行後)

審案 筆記者

陸軍省

陸

軍



(陸支密)

次官ヨリ駐蒙軍參謀長宛照會

今般鉄道省ヨリ別紙字ノ如ク申越アリ夕  
(航空托送又ハ航空便)

ルニ付貴地政府へ連絡ノ上支障ノ有無至

急回電アリ度照會ス

陸支密 三三〇二號

昭和五年十月四日





別紙



鐵祕第五〇四五號

昭和十五年九月二十七日

鐵道次官 鈴木清秀

陸軍次官 阿南惟幾 殿

蒙古聯合自治政府交通部要員トシテ派遣ノ鐵道局副參事座間味朝安  
當省事務ノ都合モ有之復歸セシメテ他ノ者ト交代セシメ度ニ付可然  
取計相成度

追テ後任ニ付テハ不日推薦可致ニ付御了知相成度





鐵祕第五〇四五號

昭和十五年九月二十七日

鐵道次官 鈴木清秀

陸軍次官 阿南惟幾 殿

蒙古聯合自治政府交通部要員トシテ派遣ノ鐵道局副參事座間味朝安  
當省事務ノ都合モ有之復歸セシメテ他ノ者ト交代セシメ庶ニ付可然  
取計相成度

追テ後任ニ付テハ不日推薦可致ニ付御了知相成度





# 大日本帝國政府

鐵道第五〇四五號

軍務  
昭和十五年九月二十七日



92  
127  
軍務

昭和十五年九月二十七日

鐵道次官 鈴木 清秀

陸軍次官 阿南 惟幾 殿

蒙古聯合自治政府交通部要員トシテ派遣ノ鐵道局副參事座間味朝安  
當省事務ノ都合モ有之復歸セシメテ他ノ者ト交代セシメ度ニ付可然  
取計相成度

追テ後任ニ付テハ不日推薦可致ニ付御了知相成度









(陸支密)

次官ヨリ鉄道次官宛回答

九月二十七日附鉄秘第五〇四五號照會ニ係  
ル首題ノ件ニ関シテハ當方異存無之ニ付  
貴方ニ於テ可然御處置相成度回答候  
也

追後任者ニハ不要ニ付推薦方中止相成  
度申添フ

支密第三四六六號

昭和七年十月廿五日





陸軍省  
陸軍部  
陸軍省  
陸軍部

陸軍省  
陸軍部  
陸軍省  
陸軍部  
15.10.24  
前官  
陸軍省

發信地  
張家口

陸軍省  
陸軍部  
15.10.24

陸軍省  
陸軍部  
陸軍省  
陸軍部

男

純

電報譯

一〇月二三日午前午後一三時一〇分發

次 官 宛 發信者 戊 集團 參謀長

蒙參電 第三一四號

陸支密 第三三〇二號 = 係ル 當政府 交通部

度務課 長座間 味朝安ノ 鐵道省 復歸ノ 件

當方 異存ナシ 後任ヲ 依然 鐵道省ヨリ 派遺又

ル件ハ 政府其ノ 他トノ 研究ノ 結果 必要之ナキ

ニ付 推薦方 中止 相成 度

(終)





第九号 第

保存期限  
 決裁指定  
 決行指定

大臣	局長	主務局長	主務課員	審案 筆記者
次官	高級副官	主務副官	書記官	
政務次官	主務課長	主務課長		
參與官				
起元廳(課)名	拓務省			
受領番號	壹第肆九七三號			
件名	軍需品工場參觀1件			
主務局長	昭和三拾五年拾月廿五日	昭和三拾五年拾月廿五日		
提出	昭和三拾五年拾月廿五日	昭和三拾五年拾月廿五日		
受領	昭和三拾五年拾月廿五日	昭和三拾五年拾月廿五日		
了結	昭和三拾五年拾月廿五日	昭和三拾五年拾月廿五日		
決行(決裁)後 回覽課名				
決行(決裁)後 回覽課名				

政務次官  
 參與官  
 決裁前連帶  
 決裁後課名

決行(決裁)後  
 回覽課名

主務局長



陸 普次官ヨリ拓務次官北島謙次郎へ通牒

十月十日附拓米第八五號照會ニ係ル首題ノ件便宜  
供與方取計ニ置キタルニ付承知相成度

陸普第七五一〇號

昭和十五年十月廿五日

陸 普副官ヨリ兵器本部總務部長、日産自動車株

式會社取締役社長へ通牒

首題ノ件ニ関シ拓務次官ヨリ願出有之タル處別紙  
ノ通許可セラレタルニ付承知相成度

(追テ秘密保持ニ関シテハ特ニ留意セシ度爲念)

(追書ハ日産ノミトス)

陸普第七五一〇號 昭和十五年十月廿五日





一、參觀者職業及氏名

商	農	商	林	農	商	醫師	齒科	商	農	農	商	農	花	農	商
業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業

藤坂	南	花	近	岡	北	加	加	天	松	落	吉	太	賀	脇	畑	安	峰
井田		月	藤		條	藤	藤	野	田	合	田	田	集	山	中	瀬	谷
忠	鍾	彌	榮	伊	精	隆	平	秀	芳	柳	柳	義	長	九	甚	仙	盛
三	鬼	右衛門	吉	祐	一	一	治	一	郎	春	一	憲	三	平	作	郎	次



計

・農	・商	・商	・農	・商	・商	自	園	商	農	運	商	農
業	業	業	業	業	業	由	藝	業	産	輸	業	業
						業	業	業	商	業		

三

八	小	諸	西	日	伊	小	佐	中	下	住	本	飯	藤	竹	清	中	熊	奧	小
名	山	隅	山	高	藤	杉	藤	川	田	田	重	田	本	岡	野	山	本	田	坂
	山	彌	英	秋		佐		安	檜	多	和	鴻	伊	長		武	俊	平	彰
	三	郎	策	清	雄	進	藏	茂	郎	助	郎	助	一	作	一	夫	典	次	二



一、案内者

拓務理事官 加藤 義明

外 三 名

一、參觀工場名

日産自動車株式会社横濱工場

一、參觀月日

昭和十五年十一月十三日  
自午後二時 至午後四時

一、參觀ノ目的

國産自動車製造ノ狀況

一、參觀範圍

參觀規程第三類







## 大日本帝國政府

カラムル爲代表者會議ヲ開催スルコトト相成居ル處會議終了後別紙  
日程表ノ通十一月十二日午後一時ヨリ東京帝國大學航空研究所及十一  
月十三日午後二時ヨリ日産自動車株式會社製作所（横濱）ヲ見學致サ  
セ度ニ付特別ノ便宜供與方御取計相煩度

尙見學日程作成ノ都合モ有之ニ付御承諾ノ上ハ御回報相煩度併テ御  
依頼ス



海外在留代表者日程表案 (所要日數二十日間)

代表者一行 三十八名

案内係 約四名

十一月六日(水)	前	八時半 會場集合 (於東京會館)
	後	九時 開會
	夜	四時 會議了ル
	前	六時 拓、外兩省主催晚會 (帝國ホテル)
十一月七日(木)	前	會議 續 (於法會會館)
	夜	六時 民間團體主催晚會 紅葉館 (拓殖協會)
八日日(金)	前	八時半 (歌舞伎座ニ於ケル民間大會開會式) 二參加、引續キ歌舞伎観覽、一二時終ル



十一月八日	後	二時半ヨリ四時迄東京市主催新東亞建設東京 談會出席
九日(土)	夜 前	民間團體主催晚餐會 會議 (於法曹會館)
十日(日)	夜 前	六時 民間團體主催晚餐會 午後(二時ヨリ市長招待園遊會)
十一日(日)	後	✓祝典參列 午前自由
十二日(火)	前	理化學研究所、帝大航空研究所 見 新宿御苑
十三日(水)	後	橫濱、日産工場視察



十一月	十四日(木)	前	九時二十三分 電車ニテ横須賀ニ回フ
	十五日(金)	前	八時二十分上野發 十時四十七分日光着 日光日 車 艦 見 學
	十六日(土)	後	一時日光發 四時四分東京着
	十七日(日)	前	休 養
	十八日(月)	後	有志陸軍第一病院慰問
		前	九時十五分東京驛發 十一時三十三分熱海着
		後	箱根見物 宮ノ下若クハ塔ノ澤泊リ
	十九日(火)	前	八時二十七分小田原發
		後	三時二十八分名古屋着 名古屋泊
		後	時間ノ都合ニヨリ適當工場見學



十一月二十日 (水)	前	熱田參拜後正午名古屋發伊勢神宮參拜、二見浦泊
二十一日 (木)	前	九時二見浦發 福原神宮參拜 午後三時三十分
二十二日 (金)	前	奈良着 奈良泊
	後	奈良見 勿
二十三日	前	一時二十一分奈良發 二時三十一分京都着京都泊
	後	洮山御凌其ノ他神社佛閣參拜
二十四日	前	九時 京都發 九時三十分大阪着 市内觀光
	後	京都泊
二十五日	前	大阪泊
	後	鐘紡工場、工業獎勵館其ノ他視察



十一月二十六日

(火)

前夜

九時三十分大阪發十時神戸着 神戸觀光

(移任救養所ト連絡ノ上)

在神民間團體ト合同ニテ晚餐會ヲ催シ分設會ヲ

兼又 神戸泊











市七

市七

力  
十  
夕  
花  
月  
兼  
吉

合  
衆  
國  
南  
嶺  
石  
浦  
門

坂  
田  
運  
鬼

奥  
田  
平  
次

熊  
本  
俊  
典

中  
山  
武  
夫

藤  
野  
大  
王  
藤  
本  
伊  
作

飯  
田  
場  
一

商  
業

農  
業

農  
業

運  
輸  
業

農  
產  
商

商  
業

自  
由  
業  
商  
業

商  
業

日  
本  
人  
會  
長

南加州中央日本人會  
南加日本人商業會議所司

日  
本  
人  
會  
長

森付組事務取扱

才  
上  
州  
商  
會  
日  
本  
人  
會  
長

日  
本  
人  
商  
會  
會  
長  
商  
業  
會  
議  
會  
長



洋		南	
ボルネオ		蘭 領 東 印 度	英 領 馬 來
小 杉 佐 喜 藏	伊 藤 進	小 坂 彰 二	中 川 安 次 郎
農 業	商 業	農 業	商 業
日本人會副會長 ダワオ、エステード、リミアツド支 記人		招和ゴム會社プロマнде農園支配人 左藤農工商事社長 ダワオ日本人會幹事	幾勿雜貨輸入業 士母池公司主 マラン日本人會長

第 十 一 卷 第 三 十 三 號



伴		兩	
計		比	ニューカレドニヤ
		島	イ
三	小川	諸	西
八	山	根	山
名	山	輔	英
	三	夜	海
	郎		商
	樓	曼	業
	業	業	
		太田興業社長	ニューカレドニヤ日本人會理事
	サウザンクロス殖産副社長		
	ダブオ日本人會長		



機密

閱

軍務

十月廿六日

第七〇

結

中

拾年保

見

文機密合第四五八五號

昭和十五年十月十一日

外務次官心得 大橋 忠

陸軍次官 阿南 惟幾 殿

外務大臣「グルー」大使會談内容ニ關スル件

十月五日松岡大臣ト「グルー」米國大使トノ會談中外務大臣ハ「帝國外交ヲ掌ル者ノ自分タルハ外相就任ノ際ニ於ケル必須條件タリシモノニシテ軍部殊ニ血氣少壯將校ニ指揮命令セララル事ヲ提案セス」ト述ヘタル旨「グルー」大使ハ國務省ニ電報シ居ル趣ノ處右ハ「グルー」大使自身ニ於テ帝國ノ外交ハ軍部特ニ血氣ノ少壯將校ニ命令セラルトノ印象アリトノ意見ヲ開陳シタルニ付大臣ヨリ現內閣ニ於





テハ外交ノ一元化ハ確立セラレタル方針ニシテ大使ノ言ハルルカ  
如キ事實ハ全然心配ノ要無シト應酬シ置タルモノヲ「グループ」大  
使ニ於テ誤報シタルモノナルニ付爲念通報申進ス



十月廿八日

第七一號

中村

通五普通合第四六一一號

昭和十五年十月十四日

外務次官心得 大橋 忠

陸軍次官 阿南 惟 幾 殿

加奈陀ノ外國向銅ノ輸出禁止ニ關スル件

本件ニ關シ今般在加奈陀松井代理公使ヨリ別紙寫ノ通電報越タルニ付右茲ニ送付ス委曲右ニテ御了承ノ上關係ノ向ヘ周知方可然御取計相煩度シ

本信送付先 陸軍省、海軍省、商工省、企畫院、貿易局

五〇二四

昭和十五年十月十五日

別紙添

15.10.15

1368

軍務課

外務次官心得



十月十日着松岡外務大臣宛在加奈陀松井代理公使發電報  
加奈陀政府ハ十月九日閣議後英本國竝ニ國內ノ需要充當ノ爲爾今  
銅ノ外國向輸出「パーミット」モ發給セサルコトトナレル旨公表  
セリ

外  
務  
省







副官ヨリ川崎重工業株式會社々長、航空本部

總務部長、憲兵司令部本部長、

海軍省副官宛通牒 (以下陸普)

興亞厚生大會出席ノ為近々来朝スルキ首題ノ一行ハ別紙日程ノ通見學ヲ許可セラレシニ付(出向ノ節ハ可然便宜供與相煩度及所依頼候也)

追テ時高板秘密事項ニ関シテハ特ニ留意セラシ度申添(候

注意、会社以外ハ追書ヲ除キ( )取ラ「可然取計」相

成度ニ作ル海軍ノ「可然取計」ニ取テ「可然取計」ニ取テ

陸普第七五一三號

昭和十五年十月廿五日

副官ヨリ蒙古聯合自治政府駐日代表部(九段ニ三日伊會談也)宛回答

十月十四日附日代宛第三三五號ヲ以テ所依頼ニ係ル首題

ノ件別紙ノ如ク許可セラルル關係各所へ通報致シ置キ夕

ルニ付所承知相成度及回答候也

陸普第七五一三號

昭和十五年十月廿五日 雷田



蒙古聯合自治政府派遣興亞厚生大會出席並訪日  
視察團見學人名及日程表

一人 名

伊克昭盟公署民政廳長

吉爾格朗

民政部厚生科長

參事官 霍克濟呼

同 厚生科副科長

事務官 山本宗城

巴彥塔拉盟公署民政廳厚生科長

額爾和圖

民政部厚生科保健主任

賈鎮

二日 程

十月二十九日(火)午前 川崎重工業株式會社神戶製鋼工場





代表部

蒙古聯合自治政府駐日辦事處



日代發第三三五號

五〇二六

訪日視察團神戸川崎造船所見學ニ關スル件

昭和十五年十月十四日

蒙古聯合自治政府駐日代表

陸軍省 陸軍大臣官房 御中

首題ニ關シ別紙寫ノ通り依頼越了リタルニ付テハ御支障  
無之限リ御許可ノ上可然便宜供與方御取計相煩度此段及  
御依頼







經由 駐日代表部

總務部公函第六一一號

成紀七三五年十月五日

蒙古聯合自治政府  
總務部長 關

口

保

神戸市川崎造船所 御中

視察團派遣ニ關スル件

拜啓 時下益々御隆昌ノ段奉慶賀候

却説今般當政府派遣興亞厚生大會出席並訪日視察團ヲシテ左記日程ニ  
依リ貴所ヲ視察致サシムベキニ付參上ノ節ハ何分共御便宜供與方御配  
慮賜リ度此段得貴意候

記

敬具



部表代

處事辦日駐府政治自合聯古蒙

附件  視察團名簿 視察目的要旨  一 一 部 部		二	一、一	三一	一〇、三〇	一〇、二九	月日
		土	金	木	水	火	曜
	門大	大牟田	熊本	別府	別府	神戶	地名
	着後	着前	着後	着前	着前	着前	發着時刻
	五〇五	一、二五	九三三	八一九	五二八	七四五	
	一二	三〇				(急) 一七	列車番號
			熊本	〃	別府	船中	宿泊地
		三池宮ノ炭坑	阿蘇登山	地獄巡り	別府市役所 九大溫泉治療研究所	川崎造船所	行動豫定



視察目的要旨

蒙古聯合自治政府厚生視察團

視察個所	視察ノ目的
川崎造船所	勞務、福祉施設ノ狀況聴取並視察ヲ主トス
別府市役所	特ニ後ニ於ケル厚生施設ノ狀況聴取並視察
九大溫泉治療研究所	施設及研究狀況聴取並視察
三池宮ノ浦炭坑	炭坑一般施設並勞務、福祉施設ノ狀況聴取及視察



代表部  
蒙古聯合自治政府駐日辦事處

別紙

67

蒙古聯合自治政府派遣  
興亞厚生大會出席並訪日視察團名簿

見字  
人名及日程表

一、人名

伊克昭盟公署民政廳長

吉爾格朗

民政部厚生科長

參事官 霍克濟

呼

同 厚生科副科長

事務官 山本宗城

城

巴彥塔拉盟公署民政廳厚生科長

額爾和

圖

民政部厚生科保健主任

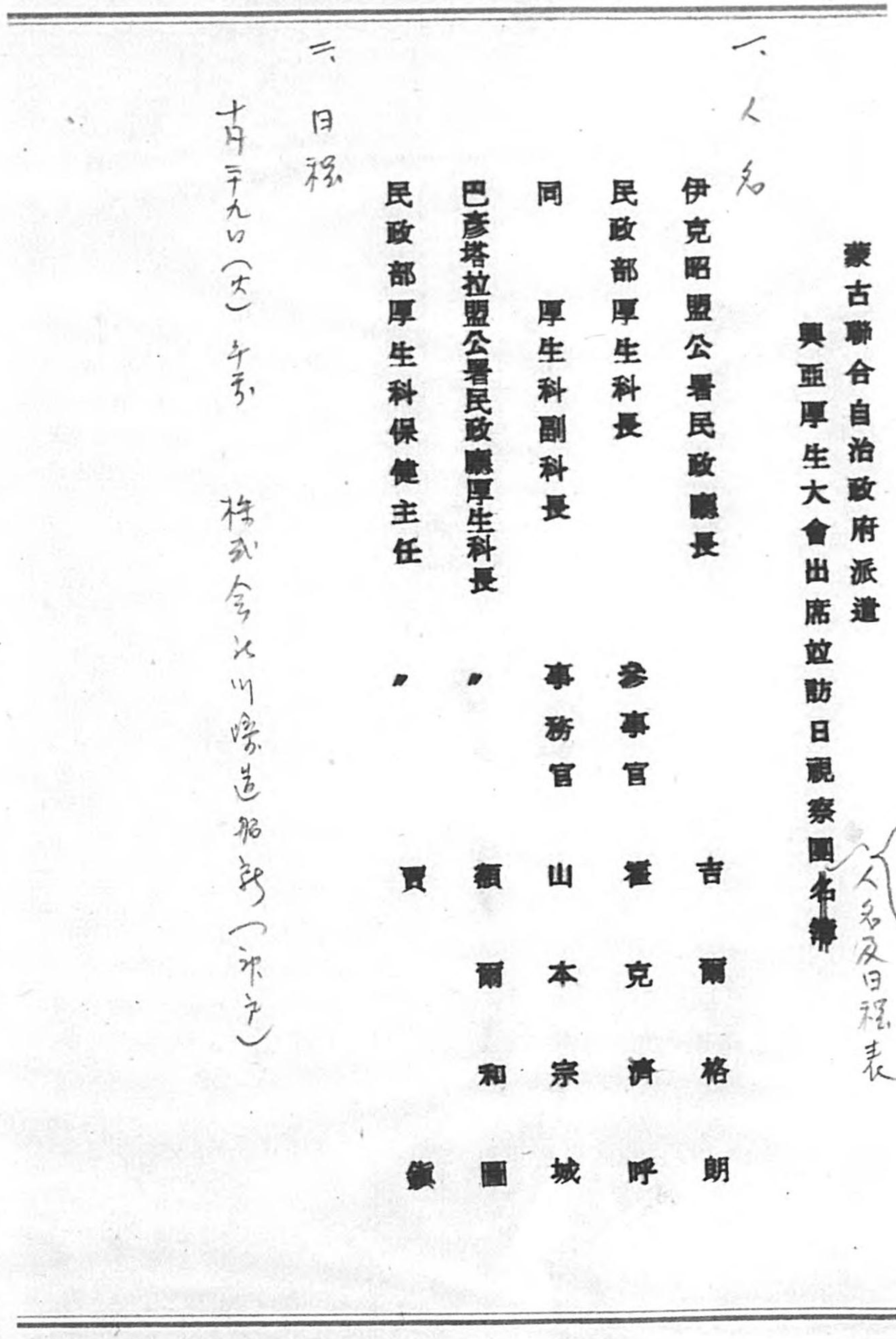
賈

鎮

二、日程

十月二十九日(火)午刻

株式會社川原造船廠(視察)





十月廿八日

第 三 七 號

中村

信

儀普通合第四六二七號

昭和十五年十月十五日

陸軍大臣殿

「キユバ」國大統領就職ニ關スル件

本件ニ關シ別紙寫ノ通在「キユバ」南條臨時代理公使ヨリ電報アリタルニ付此段通牒ス

外務大臣



別紙添附



外務省



寫



松岡外務大臣

ハバナ 十月十日後發  
本省 十一日夜着

南條代理公使

十日新任玖馬大統領「フルヘンシオ、バプテイスタ」就任式舉行

セラレタリ



第四七第

中村

軍務

6

米二普通合第四六五二號

昭和十五年十月十九日

拾年特  
陸軍省  
第五二五  
號

外務次官心得 大橋 忠

陸軍次官 阿南 惟幾 殿

西智外交復活ニ關スル件

今般本件ニ關シ在智川崎代理公使ヨリ別紙寫ノ通來電有之タルニ  
付御參考迄右茲許送付ス

本信送付先 陸軍省、海軍省

陸軍省  
昭和十五年十月二十日  
午前六時  
大臣官舎

別紙添  
陸軍省  
15.10.20  
軍務課

外務次官心得



寫

十月十五日着

松岡外務大臣宛在智川崎代理公使來電寫

十二日當國政府ハ西班牙トノ外交關係復活ノ旨公表セリ右御參考迄

外務省